

Akatake Times

3月に入り、年度終わりが近づいていますが、まだまだ寒い日が続いています。
冬に体調を崩さなかった人も、季節の変わり目に油断せずに、気を引き締めていきましょう。
平成の終わりが近づき、新元号の発表が5月に控えています。
どんな漢字が使われるか、予想してみるのも面白いかもしれませんね。

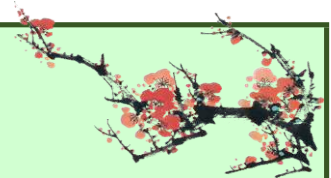


『みしま街中ウォーキング』



1月に開催された、みしま街中ウォーキングに子供と一緒に参加しました。
天気にも恵まれ絶好のウォーキング日和でした。
源兵衛川を沿っていくルートだったのですが、アスレチック要素があったので非常に歩きがいがあり、
5kmという距離を幼稚園児の次女がゴールまで歩けるか少し心配していましたが、
次女だけでなく参加した子供達は全員ゴールまで歩いていました。
久しぶりに長い距離を歩いたので疲れましたが、充実した休日を過ごせました。
今後も健康維持と家族コミュニケーションの為に積極的にイベントに参加していこうと思います。

撮影日時：2019年 1月 19日 文：技術部 電気設計課 神楽さん



◆花の便り

我が家の二本の老梅の花が見事に彩って春の訪れを告げています。二本は、幾歳月を生きたのかはつきり分かりませんが100年以上は経っているでしょう。凄い生命力に敬服です。

◆古希を迎えて

私は、こし7月で70歳を迎えます。最近、60歳は漢垂れ小僧、80歳で一人前と言われますから70歳はようやく大人の仲間入りというところでしょうか。体のいたるところに若干の衰えはありますが、あと10年は元気でいられるでしょう。頓着は無いのですが、巷で言うところ古希(稀)を生きていることになりました。(満69歳だから)古希の謂れは、「酒債は尋常行く処に有り 人生七十古来稀なり」(酒代のつけは私が普通行く所には、どこにもある。しかし、七十年生きる人は古くから稀である)8世紀の時代の詩ですから随分と隔世の感があります。私の実父は、戦地で病にかかり内地に帰り36歳で死去しました。私はその年まで生きられるか若いころはとても心配になったものです。36歳をクリアしたときは安堵感を覚えたことをハッキリ記憶しています。今振り返ると実父の2倍を生きていることになり感慨深いものがあります。これからの10年間は若い時代の20年ほどのスタンスかと思われます。濃縮な悔いのない時を過ごしたいものです。

◆“こころ”のコミュニケーション

先日ラジオで聞いた話ですが、滋賀県草津に「こどものたこ焼き屋」をボランティアで開いている人がいるとのこと。小学生10円、中学生30円、高校生は50円で、たこ焼きが7個食べられるそうです。代金は段ボールで作った箱の中に“お金を包んだげんこつ”で入れるシステム。お金がない子でも一応げんこつを入れます。箱の底にはタオルを敷いてあるのでお金の音がしないようになっているようです。お金を持っていない子でも気兼ねなくたこ焼きを“買う”ことができるという誠に心のこもったおもてなしかと思えます。今では、「げんこつおじさんのたこ焼き屋さん」と言われているそうです。売り場や食材はおじさんに共感している方々が無償で提供してくれるそうです。こういう話を聞くと眼がウルウルになってしまいます。小学生・中学生・高校生が集まる場はコミュニケーションをとることができるし、素直にげんこつおじさんにありがとう、ご馳走様といえる当たり前の心が育っているとのこと。私も今後の人生の中で子供たちがすくすくと育ってくれるような貢献ができればと思っています。

◆考えさせられる現実

全国に600か所ほどの児童養護施設があります。災害や事故、虐待や貧困で親元から離れて暮らす子供たちのための施設ですが、18歳で退所しなければならないことになっています。退所後は、厳しい現実が待っていると言います。たとえば進学、勉強するにもお金を稼がなくてはならないわけで、いわゆる貧しく辛い生活を強いられることになり、ともすれば自分を見失いがちになってしまうようです。一体この子供たちをどのように支援していけばいいのか考えさせられます。

◆個性を育む

子供の自己肯定感が低下しているとよく言われます。他人と自分を比較し、自分は劣っていると思いきり落ち込んでしまい、向上心が失われていくようです。自分をしっかり見つめ、今の自分が良く、生きている価値があると思え、自分を好きになることが大事だといわれます。子供を画一する学校教育や過度な競争や競争心を煽る家庭にも問題があるように思われます。この世にひとりしかいない(オンリーワンの)子供ですから、慈しみ個性を伸ばしていくことが大事かと思えます。子供に自信を持たせる教育が今求められています。自己肯定感を高めることが求められています。

◆日本離れする日本人

『日本の家に掛っているカレンダー、印象派の絵が印刷されたものが多いでしょう。日本には美しい絵がたくさんあるのに、なぜみんなモネ、ルノアールなのか、私はとても残念に思っています』と日本人が自国の文化に関心を持たなくなっている状況を誰よりも憂えていたアメリカ出身のドナルド・キーン氏が96歳で先ごろ亡くなりました。18歳で源氏物語に出会い、魅了されて日本文学の世界に入っていったという大の日本ファンで松尾芭蕉や近松門左衛門など近代文学を専攻したとのこと。日本国籍を取得し、ひたすら日本人を探究した“日本人”ではないでしょうか。

◆絵画が鍵か？日本の再発見！

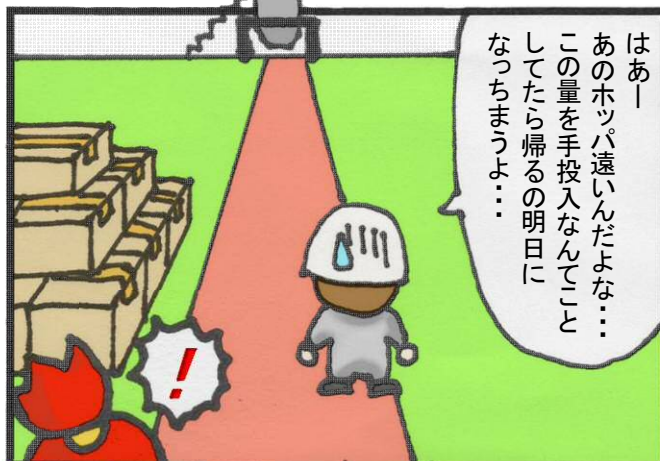
2月9日～4月7日、東京都美術館で開催されている『奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド』は、伊藤若冲、狩野山雪、岩佐又兵衛、白隠慧鶴など、江戸絵画8人の代表作を展示してあるようです。3月21日～は京橋の加島美術で『Back To The江戸絵画』が開催されます。古き良き時代の絵画を鑑賞し、日本人を探究してみたいかたがたは是非どうぞ。

3月から第48期下期に突入です。ご安全に！！

代表取締役社長 赤堀 肇紀

一命がけの、 レッドサムライ

～赤きサムライ、見参！！の巻～



はあー
あのホッパ遠いんだよな…
この量を手投入なんてこと
してたら帰るの明日に
なっちまうよ…



なんだこのかつてない
安心安全で快適な作業♪
いったいあんたは何者なんだ？

このように空気を使って
輸送することで圧倒的に
作業が楽になるし、時間も
短縮できるのでござる。



拙者はレッドサムライ！
世にはびこる粉の困り事を
根絶するために旅を続ける
粉体ハンドリングのトータル
ソリューションにござる！